

令和6年度 保育士の自己評価

森の子保育園

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき森の子保育園では、毎年自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。

〈評価について〉 評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

A かなり出来ている B ほぼ出来ている C あまり出来ていない D ほとんど出来ていない

クラス名

氏名

自己評価の点検

	A	B	C	D
Ⅰ 保 育 の 計 画 性	1、園の保育理念・保育方針・保育目標の理解			
	○園の保育理念・保育方針・保育目標を理解している。	6	11	1
	2、保育所保育指針の理解			
	○保育所保育指針の趣旨について理解している。	4	11	3
	○保育所保育指針が示す「保育所の役割」を理解し保育を行っている。	4	12	2
	3 保育の全体的な計画の理解			
	○園の全体計画を理解していると思う。	2	12	4
	4、指導計画の作成			
	○指導計画は、保育指針・全体計画・乳幼児の実態等をもとに考え作成している。	4	12	2
	5、環境の構成			
	○安全で清涼感のある環境構成をしている。	5	12	1
	○乳幼児が自ら活動を展開して行けるような場や空間の構成をしている。	3	14	1
	○乳幼児の動線や目線に配慮した環境構成をしている。	4	13	1
	○季節の変化に応じた環境構成をしている。	5	13	
Ⅱ 保 育 の 在 り 方 ・ 乳 幼 児 へ の 対 応	6、保育と計画の評価・反省			
	○自分の保育と計画の評価・反省は行うようにしている。	3	12	3
	○評価反省を次の保育と計画に活かせるように行っている。	7	5	3
	○自分の保育を他の職員たちにも見てもらい、それをもとに検討している。	1	7	10
	1、健康と安全			
	○子どもの健康状態を定期的、継続的に把握し健康管理している。	10	7	1
	○登園時は視診や検温により幼児の体調が悪くないか確かめている。	11	6	1
	○体調が悪そうなときは静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行いすぐに家庭へ連絡している。	16	1	1
	○園内外を清潔に保ち、玩具・遊具の点検を定期的に行い、安全・安心感のある環境作りに努めている。	5	13	
	○園内に危険な箇所や物がないか、危険な遊び方はないか観察している。	7	10	1
	○感染症の予防に努め、流行病の情報を家庭に伝達している。	10	8	
	○気候や子どもの活動に合わせて、温度・湿度・換気などに配慮している。	12	5	
	○万一事故やけがが発生した場合は、園長に報告したり保護者に連絡を取ったり医者に診てもらうなど適切な処置を行っている。	12	5	
	2、乳幼児への関わり			
	○一人ひとりの乳幼児をよく観察するように心がけている。	15	3	
	○幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても推察するようにし基本的欲求が満たされるように、配慮している	8	10	
	○幼児の理解のために保護者と話し合うことがある。	8	7	3
	○幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしないようにしている。	10	8	
	○園児の気持ちに共感しながら一緒によく遊んでいる。	6	11	1
	○幼児の話をよく聞くようにしている。	10	8	
	○幼児をほめたり、励ましたり、成長を促せるような言葉かけをしている。	13	5	
	○幼児の個性や性格、特徴に応じた関わり方をしている。	8	10	
	○「先生のようにやってみたい」と幼児が思うような立振舞を心がけている。	2	12	4
	○乳幼児期は身体的条件や育成環境などの違いにより、1人ひとり心身の発達に個人差があることを理解して関わっている	13	5	
	○(乳児)おむつ交換時は優しく声かけしスキンシップをとりながら行っている。	9	5	3
	○(乳児)家庭と連携をとりながら、1人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ、食への意欲を育てている	8	4	3
	○(乳児)十分な睡眠がとれるような静かな環境を整え、午睡の状態、SIDS(乳児突然死症候群)のチェックを記録している	14		3
	3、保育者同士の協力と連携			
	○乳幼児のことについて常に保育者同士で話し合い、クラスを超えて情報を共有している。	8	7	3
	○指導上必要な園児については、職員全体でよく話し合い、共通理解を持って対応するようにしている。	10	6	2

自己評価の点検		A	B	C	D
Ⅲ 専 門 家 と し て の 資 質 （ 能 力 、 良 識 、 適 正 等 ）	1、専門家としての能力・良識・義務				
	○幼児の性格や個性を把握するよう努めている。	12	6		
	○朝と帰りのあいさつは、明るく元気に親しみをこめてしている。	15	3		
	○何かをしてもらったら感謝の気持ちを言葉等で表している。	14	4		
	○職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。	16	2		
	○締め切りのある仕事や提出物の締め切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている。	7	6	4	
	○教材・教具の管理点検、園内の清掃や整理整頓を実施している。	4	14		
	2、組織の一員としての在り方				
	○子どもの事やクラスの出来事等で必要な事は、園長や主任に報告・連絡・相談をしている。	10	7		1
	○職員や園、の批判を軽はずみにしていない。	14	4		
	○当番や役割による仕事を理解し職員間でコミュニケーションを密にし互いに助け合ってる	7	10	1	
	○自分の困り感や職場における悩みを職場内の同僚等に話、解消し心の安定が図れている。	15	3		
	○他の意見を素直に受け止め、自分の意見を述べることができる。	3	15		
Ⅳ 保 護 者 へ の 対 応	3.研修と研究				
	○研修会等には自己課題・向上心を持って進んで参加している。	6	10	1	1
	○園の遊具や教材、機材について基本的な使い方を知っている。	4	11	3	
	○障がいのある幼児に対応する保育のあり方を学習している。	2	12	4	
	1、情報の発信と受信				
	○「クラス便り」で保育実践の内容や意図、保育のポイント、クラスの子どもの様子等を分かりやすく知らせている。	3	10	5	
	○子育て就労を支える為に、保護者の気持ちに寄り添いながら接するように努めている。	17			
	○一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している。	1	10	7	
	○個々の子どもの様子は、直接話したり連絡帳等を使って伝え合っている。	5	10	3	
	2、協力と支援				
	○保護者からのさまざまな訴えや意見要望については安易に受けたり、断ったり、無視したりしないで園長や主任等に報告や相談をしている	9	9		
	3、守秘義務の遵守				
	○保護者や職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らしていない。	14	4		
Ⅴ 地 域 の 自 然 や 社 会 と の 関 わ り	○園の運営上の情報、個人情報、相談内容等は園内で適切に検討処理し、外部に漏れない配慮をしている	15	3		
	4、対応				
	○保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している。	13	5		
	○電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいので、手短に簡潔に要領よく対話することを心がけている	9	8	1	
	○長期の欠席や入院等の場合には、見舞ったり、電話をしったり園やクラスの様子を伝えたりしている。	18			
	5、クレームへの対処の仕方				
	○保護者からクレームがあった場合は、謙虚に話を聞き、園長に連絡・報告・相談している。	14	4		
	1、地域との関わり				
	○地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている。	10	6	2	
	○地域の自然や機関を指導計画の中で位置付け、活用している。	3	5	9	1
	○実習生を受け入れるときは、意義や方針を理解し指導的立場で接している。	2	11	4	
	2、小学校との連携				
	○卒園した子どもの情報を得るよう努めている。または努めようとしている。	3	6	2	
	○園の保育内容が小学校への準備としてつながることを理解している。	18			

自己評価の点検		A	B	C	D
VI 地域における子育て支援	1、自園の子育て支援事業の理解(全教職員)				
	○地域開放(親子保育園体験日・行事など)について職員間で共通理解の上取り組んでいる。	7	8	3	
	○自園の子育て支援事業について理解し、利用者にパンフレットやおたよりでわかりやすく説明できる。	4	6	8	
	○親しみやすい雰囲気心をかけ、利用者に積極的に声をかけている。	7	11		
	2、環境設定(講座および支援センター事業担当者)				
	○子どもが自分で遊びを考え出して主体性を発揮できる環境を作り、子どもの支援ができる場を作っている。	1		1	
	○講座等で子育て学習の機会を設けて、親の支援ができる場を作っている。		1	1	
	○利用者同士(親同士、子ども同士)の関係が作りやすいよう配慮して、遊びの場を設定している。		2		
	3、支援の姿勢(支援センター事業担当者)				
	○どの利用者にも公平に接している。	1	1		
	○利用者同士(親同士、子ども同士)の仲間作りを促し、場の全体に気を配っている。	1	1		
	○価値観、経験、力量などの利用者の多様性を受け入れ、それに合わせた対応をしている。		1	1	
	○利用者が良好な親子関係を築くことができるように、肯定的に働きかけている。		2		
	4、育児相談(講座および支援センター事業担当者)				
	○課題がある親子に気づき、利用者の気軽な相談を大切に受け止めている。		2		
	○専門的な言葉を極力使わずに、日常的な言葉でわかりやすく伝えている。		2		
	○保護者などから問い合わせがあった場合に、自園または地域の子育て資源に関する情報について説明できる。		2		
	○対応が難しいケースの場合に連携すべき専門機関を知っている。	1	1		
	5、支援の評価・反省(講座および支援センター事業担当者)				
	○魅力的な活動、居心地の良い場を維持するために、現状の課題や今後の運営について話し合っている。			2	
	○地域に子育て支援ニーズを把握し、地域に自園の子育て支援事業を紹介している。			2	
	○講座準備等の業務が円滑に進むよう、協力し合っている。		1	1	
園全体の評価					
当園では、職員による自己評価の実施を通して、保育の質向上と組織の活性化に継続的に取り組んでおります。評価結果からは、子どもの健康管理、安全確保、保護者への対応、保育理念の理解などにおいて、職員一人ひとりが高い意識を持って日々の実践にあたっていることが確認されました。特に、「子どもをよく観察する姿勢」「丁寧なコミュニケーション」「守秘義務の遵守」「明るく元気な挨拶」などは、多くの職員が高評価を得ており、園の強みとして位置づけられます。 一方で、保育計画の理解・作成や保育実践の振り返りを他職員と共有する仕組み、小学校や地域資源との連携、子育て支援事業に関する共通理解などにおいては、課題も見られました。特に、地域との協働や支援センター機能の活用においては、一部職員の理解に差があることから、さらなる情報共有と役割の明確化が求められます。					
来年度の課題					
当園では、今後の保育のさらなる充実に向け、いくつかの課題に取り組んでいく必要があります。まず、職員一人ひとりが自身の課題を振り返り、次年度に向けて積極的に研修等へ参加し、専門性の向上を図る機会を充実させていきます。また、子ども一人ひとりの特性や発達に応じた保育を行うために、小グループ保育を取り入れ、より丁寧な関わりを目指します。 さらに、職員間の連携を強化するため、話し合いの場を定期的に設け、共通の方向性を持って保育に取り組める体制づくりに努めます。加えて、ICTの活用により職員の業務負担の軽減を図り、保護者への情報発信を含めた「保育の見える化」を推進していくことが重要な課題となっています。					